

2025年3月期 決算説明

2025年5月21日

(コード番号2340 東証スタンダード)

株式会社極楽湯ホールディングス

本資料は、株式会社極楽湯ホールディングスの事業および業界動向に加えて、 株式会社極楽湯ホールディングスによる現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた 将来の展望についても言及しています。 これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。 既に知られた、若しくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、 将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。 株式会社極楽湯ホールディングスは、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束する ことはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。 本資料における将来の展望に関する表明は、2025年5月21日現在において、 利用可能な情報に基づいて、株式会社極楽湯ホールディングスによりなされたものであり、 将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、 変更するものではございません。

問い合わせ先: ir@gokurakuyu.ne.jp



1. 決算概要



- 1、アニメコンテンツやVtuber等とのコラボイベントに加えて、 地域との連携イベントが好調に推移、飲食メニューの考 案・販促、入館料金の改定、シーズン料金の期間拡大等に より、上場以来の最高益を達成。(詳細: P12~P35)
- 2、新店開業、新店準備及びパートナー業務連携(詳細: P38~P43)

(新店開業: RAKU SPA BAY 横浜、RAKU SPA Station 府中、

RAKU CAFE 心斎橋、極楽湯 ロイヤル川口

新店準備:(仮称)RAKU SPA 武蔵小金井

パートナー業務連携:ヒナタの杜 小戸の湯どころ)

- 3、金融機関からの借入金に対し繰上返済を実施(詳細: P37)
- 4、資本金及び資本準備金の減少を発表(詳細: P11) (後発事象、2025年6月27日開催予定の第46期定時株主総会において承認可決 されることが条件)



- ①売上高は、前期比7.7%増の15,164百万円(1,081百万円増加)(理由: P6参照)
- ②営業利益は、前期比52.4%増の1,140百万円(391百万円増加)
- ③経常利益は、前期比77.7%増の1,279百万円(559百万円増加)
- ④親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べ72百万円増加し769百万円

(単位:百万円)

	売上高営業利益		経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	
25年3月期 実績		15,164	1,140	1,279	769
24年 実		14,082	748	720	697
前期	増減率	+7.7%	+52.4%	+77.7%	-
同期比	増減額	+1,081	+391	+559	+72



当社グループの報告セグメントは「日本」、「中国」の2区分としておりましたが、香港子会社株式の一部譲渡等により2023年12月末をもって中国グループを連結の範囲から除外したため、2025年3月期から「日本」のみの単一セグメントといたしました。

- ①アニメコンテンツやVtuber等のコラボイベントに加えて地域と連携したイベントが好調
- ②熱波師の誘致、新たなサウナドリンクの開発・販売によるサウナイベントの強化
- ③飲食メニューの考案・販売促進、入館料金の改定・繁忙期シーズン料金の期間拡大
- ④中国が連結範囲内だった前年同期以上の売上を獲得
- ⑤上場以来の最高益を達成

(単位:百万円)

		1Q 4-6月	2Q 7-9月	3Q 10-12月	4Q 1-3月	累計
25年3月期	売上高	3,280	3,706	3,606	4,571	15,164
実績	営業利益	167	526	72	373	1,140
24年3月期 実績	売上高	3,099	3,311	3,249	3,373	13,033
	営業利益	234	371	234	420	1,261



営業外損益

(単位:百万円)

主なもの		金額	説明
1.	持分法による投資利益	95	持分法適用会社が獲得した利益のうち当社持分
2.	協賛金収入	85	国内直営店舗の自動販売機設置に伴う協賛金
3.	受取家賃	25	駐車場賃料や駐車場代(時間貸・定期貸)
4.	支払利息	▲ 79	銀行などへの借入利息

特別損益

主なもの		金額	説明
1.	新株予約権戻入益	30	行使期間終了による利益
2.	固定資産除却損	▲ 50	直営店舗の設備等の入れ替えによる
3.	減損損失	▲100	直営店舗の固定資産の回収不能見込額



(単位:百万円)

- ①総資産は、前期比14.8%増13,024百万円(1,678百万円増加)
 - →新規出店などにより建物及び構築物が1,212百万円増加 業績好調により売掛金、未収入金及び棚卸資産が合計で439百万円増加
- ②純資産は、前期比27.5%増の3,820百万円(822百万円増加)
 - →親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が769百万円増加 新株予約権の行使より資本金及び資本準備金がそれぞれ49百万円増加 投資有価証券の株価の変動によりその他有価証券評価差額金が35百万円減少
- ③自己資本比率は、前期比5.5%増の27.4%
- ④ 1 株当たり純資産は、前期末に比べ18.53円増加し113.41円

		総資産	純資産	自己資本比率	1株あたり 純資産
	3月期 績	13,024	3,820	27.4%	113.41円
	3月期 績	11,345	2,997	24.1%	87.79円
会切し	増減率	+14.8%	+27.5%	+5.5%	+21.1%
前期比	増減額	+1,678	+822	-	+18.53円



			(単位:百万円)	利益
	24年3月期 実績	25年3月期 実績	増減	②派 ③派 ④第
営業活動CF	1,575	2,195	+619	情格 ⑤
投資活動CF	▲ 1,107	▲ 1,205	▲98	少2
財務活動CF	▲ 2,655	▲ 957	+1,698	①有 によ ②き
現金及び現金同等物に係る 換算差額	25	-	▲25	よる
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	▲2,162	32	+2,194	① <u>5</u> よる
現金及び現金同等物の期首残高	5,429	2,865	▲ 2,564	② 育 資 を
現金及び現金同等物の期末残高	2,865	2,897	+32	

- ①税金等調整前当期純利益1,160百万円 ②減価償却費592百万円 ③減損損失100百万円 ④業績好調による売上 債権の増加195百万円 ⑤前連結会計年度末に 実施した修繕工事等の 支払による未払金の減 少287百万円
- ①有形固定資産の取得 による支出972百万円 ②差入保証金の差入に よる支出146百万円

①長期借入金の返済による支出1,023百万円 ②前期は第三者割当増 資を実施



日本国内は増収増益で好調に推移しているものの、 世界的なエネルギーコストや原材料費の上昇等の不確定な要素を現時点において 合理的に算定することが困難なため**未定**とします。

(単位:百万円)

	売上高営業利益		経常利益	親会社株主帰属 当期純利益	
26年3月期・予想	未定	未定	未定	未定	
(ご参考) 25年3月期・実績	15,164	1,140	1,279	769	



当社は、2025年5月20日開催の取締役会において、2025年6月27日開催予定の第46期定時株主総会に資本金及び資本準備金の額の減少について付議することを決議いたしました。

1. 本件の目的

今後の当社の資本政策の柔軟性、機動性を向上させることを目的として資本金 及び資本準備金を減少し、その減少額をその他資本剰余金へ振り替えるものです。

2. 減少の内容

- (1)減少する資本金の額 資本金5,252百万円を3,100百万円減少し2,152百万円とし、その全額を その他資本剰余金に振り替えます。
- (2)減少する資本準備金の額 資本準備金2,598百万円を2,000百万円減少し598百万円とし、その全額 をその他資本剰余金に振り替えます。
- ※詳細については、 2025年5月20日リリースの「資本金及び資本準備金の額の 減少に関するお知らせ」をご確認ください。



2. 今期の取り組み



































































4月16日~ 南種子町産品の様々な飲食コラボメニュー・物販を展開











11月1日~11月30日 湯沢市産品の様々な飲食コラボメニュー・物販を展開











































































































■販売促進イベント









■販売促進イベント









■2024年度(一部)









当社グループが強みとする温浴業と宿泊業の融和性・親和性は極めて高いものであると考え本ファンドへ出資いたしました。出資を通じて当社グループのノウハウを提供することで地域社会へ貢献いたします。

【出資予定総額】 5,000万円

- ※順次、キャピタル・コールに応じて資金拠出
- ※プレスリリース「旅館再生ファンド「RQ旅館再生ファンド投資事業有限責任組合」への出資に関するお知らせ」(2024年7月31日)より 一部抜粋

3. 本ファンド概要

名称	RQ旅館再生ファンド投資事業有限責任組合
ファンド総額	約 30 億円 (最大 50 億円)
無限責任組合員	株式会社リアルクオリティ
有限責任組合員	独立行政法人中小企業基盤整備機構、地域金融機関、事業会社
設立日	2023年6月30日
投資対象	旅館やホテル等の宿泊業を営む日本国内の中小企業 (全国)
	新型コロナウイルス感染症により多くの中小企業が影響を受ける中、
目的	特にその影響を大きく受けた地域経済観光の根幹を担う宿泊業を
	投資対象とし、再生支援を行うこと



業績が順調に推移していることや手元資金残高の水準を鑑みて、財務体質の強化及び有利子 負債の削減による利息負担の軽減のため、借入金の一部を繰上返済することといたしました。

【繰上返済額】471百万円 【繰上返済日】2024年9月30日

※プレスリリース「借入金の一部繰上返済に関するお知らせ」(2024年9月10日)より一部抜粋

2. シンジケートローン契約の概要

(1)組成総額 : 33 億円

(2)契約日 : 2023年12月26日(3)実行日 : 2023年12月29日

(4)満期日 : 2030年12月30日(繰上返済後は2029年12月30日)

3. 繰上返済日

2024年9月30日

4. 繰上返済等の概要

(1) 直前借入金残高 : 30.6 億円
(2) 9月30日予定返済額 : 1.1 億円
(3) 9月30日繰上返済額 : 4.7 億円
(4) 上記返済後借入金残高 : 24.7 億円



■ RAKU SPA BAY 横浜

【所在地】 神奈川県横浜市神奈川区山内町15-2

【店舗面積】約735坪

【開店時期】2024年12月5日

スパとフィットネスの機能を備えた「INSPA横浜」内に出店する直営店舗。 天然温泉を有したお風呂を中心に、岩盤浴や広々とした空間の休憩エリアなどを備 えた施設で、みなとみらいがみえる眺望も魅力のひとつです。







■ RAKU SPA Station 府中

【所在地】 東京都府中市宮西町1-5-1

【店舗面積】約1,180坪

【開店時期】2024年12月25日

府中駅徒歩2分という好立地に加え、天然温泉を有する本格的なお風呂やサウナ、広々とした休憩エリアなどを備えています。

また、5月より12階の屋上に新エリアとして、潜れる水風呂&セルフロウリュを備えた天空のととのいどころ「天空サウナ」を新設いたしました。







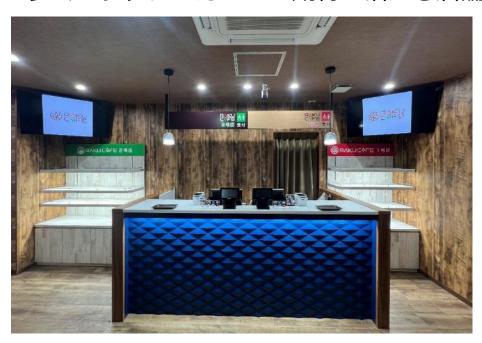
■RAKU CAFE 心斎橋

【所在地】 大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-4-12 心斎橋日光ビル4階

【店舗面積】約78坪

【開店時期】2025年2月27日

事前予約制のコラボ専門カフェ。さまざまな人気アニメやゲーム等のコラボを 企画・開催し、コラボキャラとの特別な空間と時間を堪能できるカフェとして 多くのファンの方々のご期待に沿える店舗にしてまいります。







■極楽湯 ロイヤル川口

【所在地】 埼玉県川口市朝日3-13-27

【店舗面積】約654坪

【開店時期】2025年3月27日

地下1,300mから湧き出る天然温泉「黒湯」の源泉かけ流しの源泉風呂や炭酸泉などの本格的なお風呂や男女ロウリュサウナ、漫画などが読める休憩エリアなどを備えており、時間を忘れて楽しめる極上の空間を提供します。







■(仮称)RAKU SPA 武蔵小金井

【所在地】 東京都小金井市本町 2-1886-3 他

【店舗面積】約700坪

【開店時期】2025年12月頃(予定)

JR「武蔵小金井駅」東側の高架下に位置し、駅隣接の利便性の高い都市型施設で、洗練された上質な空間、サウナや岩盤浴を備えた本格的な癒しをご堪能いただけるよう準備しております。





温浴事業に関する経営資源、経営ノウハウの有効活用等を図り、販促イベントや共同事業等を実施することで、相互のサービス向上・利益拡大を目的として、株式会社ヒナタの杜と業務提携いたします。

【業務提携の内容】

- (1)株式会社極楽湯が展開する販促イベントを「ヒナタの杜 小戸の湯どころ」 において実施
- (2) 温浴事業に関連する商品やサービスの共同開発
- (3) 両社が運営する温浴施設における運営ノウハウの情報交換

【株式会社 ヒナタの杜 について】

株式会社 ヒナタの杜は、西部ガスホールディングスのグループ会社。 主な事業内容は、温浴施設「ヒナタの杜 小戸の湯どころ」の経営及び運営。





【ヒナタの杜 会社概要】

社 名:株式会社 ヒナタの杜

代 表:代表取締役社長 市來 洋介

所在地:福岡市博多区千代1丁目17番1号

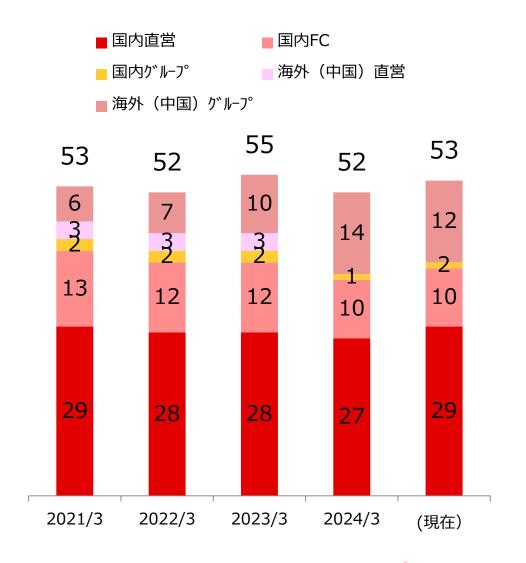
設 立: 2019年4月1日

【「ヒナタの杜 小戸の湯どころ」概要】

所在地:福岡市西区小戸2丁目1番87号

- ※ 温浴施設「ヒナタの杜 小戸の湯どころ」の詳細は HPをご覧ください。https://www.hinatanomori.jp
- ■当社の株主優待券はご利用いただけません■





直営 29 海外 0 国内 29 FC **10** 海外 0 国内 **10** 海外 国内 2 12

(2025年5月21日現在)

注:温浴施設以外の店舗を含まない

41

国内

国内グループには、パートナー1店を含む

海外



順位	社 名	本社		部 門 売上高 (百万円)	前年度 比伸び 率(%)	決算月
1	極楽湯ホールディングス 🛇	東	京G	14, 082	10.3	3
2	スパサンフジ(湯楽の里、喜楽里)	東	京	12,836	13.7	3
3	オークランド観光開発(竜泉寺の湯、喜 盛の湯、スパメッツアほか)	愛	知	11, 547	18.8	4
4	常磐興産 (スパリゾートハワイアンズ) ◊	福	島	4, 235	26. 2	3
5	創 裕(ぽかぽか温泉ほか)	香	Ш	4,053	7.1	3
6	カケン(喜多の湯)	愛	知	2,921	8.0	3
7	ツルカメO&E(風の湯、おゆば、葵湯、 風の森、大家族の湯)	香	IJGF	2,610	8.3	3
8	エコナックホールディングス (テルマー湯) ◊	東	京G	1,843	35. 3	3
9	サンリク(健美の湯)	埼	玉	1,563	∆ 6. 6	3
10	マンテンホテル(満天の湯)	富	Ш	1, 307	19.9	9
11	コシダカホールディングス (まねきの湯) ◊	群	馬G	1, 057	18. 2	8
12	亀井工業ホールディングス(湯快爽快)	神经	[川]	990	27.6	9

(「日経MJ」2024年10月30日より転載)

極楽湯グループ 売上No. 1

※「日経MJ」調べ



3. (参考)会社概要・国内の温浴業界



株式会社極楽湯ホールディングス

ロゴマーク



― ロゴマークに込めた思い ―

極楽湯グループは「ゆ」から始まる 快適癒し空間を創って来ました。 今後も、新たな空間創りのため、 「ゆ」のように温かくも、 型にはまらず成長し続ける

私達でありたいと思っています。

人への温かさ、優しさ。
即ち「癒し」を通じて社会貢献を果たします。
日本から世界へ。
人や自然との調和を大切に。
その先の成長へと向かい、発信し続けていきます。



国内NO.1温浴チェーン(店舗数日本一)

「極楽湯」「RAKU SPA」ブランドで 国内41店舗(直営29・FC10・グループ1・パートナー1)の温浴施設運営



「日常生活の延長線上に癒しを提供する」 をコンセプトに展開する日帰り温浴施設 直営のほか、フランチャイズ形式で出店





ORAKU SPA

特に若い世代を中心にお風呂と合わせて広々とした館内で多くの遊べるコンテンツを盛り込み、癒しと遊び心が詰まった、楽しめる温浴施設 "RAKU SPA Cafe"や"RAKU SPA GARDEN"、 "RAKU SPA 1010(セントウ)"といった特色あるシリーズで出店



温浴事業の再強化・拡大

(温浴施設を起点に娯楽ニーズを取り込む)

直営出店+既存店の補修・改装(進化)

「RAKU SPA」: 滞在型娯楽施設として進化・発展

「極楽湯」: 補修・改装による安心安全・顧客満足度の向上

+ 新業態開発による既存事業への波及効果

外食事業(第2弾: RAKU CAFE(新しいコンセプトのお店))



入館料金+aの アイデアで収益機会の可能性大

公衆浴場法

一般公衆浴場業

銭湯

地域住民の日常生活の健康衛生上必要なもの

料金は都道府県が規定 (物価統制令で入浴料金を統制) 大人:350円~530円

その他公衆浴場業

温浴業界

日帰り温浴施設、 スーパー銭湯、健康ランド サウナ、スパ、クアハウス など<u>銭湯以外すべて</u>

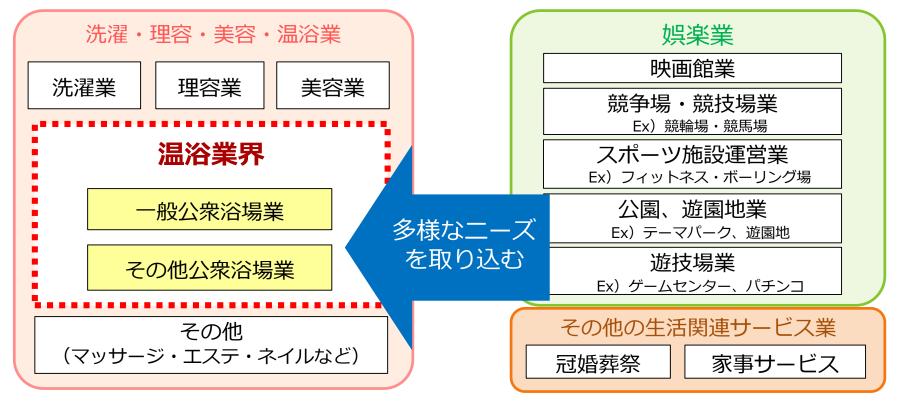
料金は施設が自由に設定

(物価統制令の適用外) 大人:400円~900円が中心



若い世代など多様な二一ズを取り込む動き

生活関連サービス業、娯楽業(日本標準作業分類)





公衆浴場営業許可施設: 23,673施設(2023年度末)

うち、一般公衆浴場:2,847施設

1970年占有率:87% ⇒ 2023年占有率: 12.0%

(出所:厚生労働省「衛生行政報告例」)

大型レジャー浴場や食事、休憩、娯楽施設も併せ持つスーパー銭湯の増加 ターゲットを明確にして特色ある施設へと差別化、工夫を一層進める

背景

高齢化社会の到来 健康志向の高まり 余暇の過ごし方が多様化 業態のボーダレス化 緩やかな所得改善

当社の展開

テーブル席の増加 炭酸泉、岩盤浴の導入 明るい照明、床材へ キッズコーナーの充実 大型温浴施設の出店 飲食充実、専門店の出店



集客・収入・利益の創出

温浴施設(入館料金)



利益の補完

附帯施設の利用

事業の特性

- ・装置産業
- ・固定費負担重く、償却費も多い
- ・固定費を下げることが利益増に つながる
- ・損益分岐点からのかい離率が大きいと利益が累積的に増加する
- ・原油等の市況価額の変動の影響で コストの変動リスクがある

事業の特性

- ・アイディア・サービス
- ・変動費比率が高いので、 増収→増益に直結しやすい
- ・初期投資費用が少なく 採算性の見極めがしやすい
- ・継続的な採算性チェックが必要

収益向上への考え方

- ①固定費の引き下げ
- ②集客増による増収効果

収益向上への考え方

- ①生産性の見直し
- ②稼働率の向上

